

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101742		
法人名	社会福祉法人 神楽会		
事業所名	グループホーム くらさき		
所在地	長崎市上黒崎町665-1		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和4年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の草花が楽しめる自然豊かな場所にあり、夕陽がとても綺麗です。
毎月ケアカンファレンスにてご利用者様一人ひとりに焦点を当て、日々変わっていく身体状況や認知症の症状に合わせたケアの方法について職員全員で意見交換を行い問題解決に努めています。
施設内では、ご利用者さまの健康管理について主治医と連携し、看護師を中心に職員全員で早期発見に努め、対応しています。また希望の方には看取りケアも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは昨年10月の法人変更後、事業所名称も新たに利用者の穏やかな暮らしの支援に取り組んでいる。法人理事長は職員へ理念に込めた思いを伝え、毎月の職員会議に出席し、ホームの状況を把握している。職員は法人内研修にて学ぶ機会が増え、利用者支援に活かしている。また、看取り支援では、法人内の湯灌事業部の協力を得て体を清め、本人の最期をきれいな姿で送り出している。利用者をよく知る職員が管理者となったことは、これまでと変わらない個別ケアの継続ができており、本人・家族に安心感に繋がっている。起床後の寝具の整頓により快適な住環境を提供し、飲物の提供を工夫し水分摂取を促したり、食べやすい器に交換したり、愛用品から思い出話を聞き出す等さりげない心遣いが窺える。利用者の命をどうしたら守れるかを考え、消防団との連携や夜間一人体制の避難訓練実施に向け検討しており、理念「大家族をつくろう」の具現化に向けて、さまざまな取組を行っているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の「家族を作ろう」のテーマに自立支援を常に優先しながら日々のケアを実践している	法人変更に伴い、法人理事長は職員へ理念に込めた思いを伝えている。毎月の職員会議には理事長も出席しており、理念に関連付けた月の目標を発表し、翌月の会議にて振り返りを行う仕組みを作っている。職員は理念を意識した支援に取り組んでいるところである。	理念は、利用者支援において職員の拠り所であり、常に立ち戻る原点である。全職員が同じ方向を向いた支援ができるよう、理念の浸透を促す取組に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々から季節の野菜、果物を頂いている。運営推進会議についても書面にて参加して頂いている	自治会に加入しており、広報誌が届いている。近隣住民とは日頃から挨拶を交わしており、ミカンや柚子、菖蒲等、季節毎に収穫物の差し入れがある。新型コロナ禍以前は保育園児や日本舞踊のボランティアの訪問があり、利用者の楽しみであった。収束後の訪問が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の書面にてケア工夫や取り組みを報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット、自己の内容の具体的な報告やご家族の要望、意見を聴き、行政より指導を受けながらサービス向上に努めている	管理者は法人内の他事業所管理者に会議の進行方法を学び、11月と1月の2回書面会議を実施している。家族と委員に先行配布資料にてホームの状況報告し、意見・質問用紙を返信してもらう形式で意見・要望を収集している。会議報告書にて回答しており、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への市職員へ書面にて活動を報告している	介護認定更新等の手続きはケアマネジャーが窓口に出向いており、利用者や行政担当課職員との仲介は法人本部が行っている。新型コロナ対策や研修の案内等が文書で届いており、情報を支援に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束廃止委員会の開催、3ヶ月に1回の内部と全職員で確認し合っている利用者の行動を抑制することの無いよう努めている。	身体的拘束等の適正化の指針があり、毎月法人内の身体拘束廃止委員会に管理者が参加し、議事録を回覧している。職員は3ヶ月毎に法人内研修にて身体拘束や虐待について学んでいる。何気ない言葉や支援が利用者の行動の抑制に繋がることあるため、気付いたら注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の虐待防止委員会の開催 入浴時や更衣時に異常の早期発見に努め異常を発見した場合は早期に原因を究明し対応するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に行けないので、今後勉強会を開催し、理解を深めるようにする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様とご家族に詳しく説明し疑問や不安の残らないようにし同意を得ている 解約、改訂の際も同様に対応し理解納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や毎月利用者の状況を報告し、ご家族の要望や意見を反映できるように努めている また医療機関と家族との連携が上手く行くように反映させている	法人変更について、家族に電話や文書で知らせ契約書を取り直している。新型コロナ禍で家族の面会が中断した時期もあるが、現在は窓越しの面会を支援している。また、毎月の請求書発送時に日頃の様子を写真に撮り同封しており、家族に好評である。利用者の状態に応じてミキサー食等への変更を家族に相談し了承を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の定例職員会議を開き、必要に応じて職員の意見や提案を聴き、反映するように努めている	毎月の職員会議に理事長が参加しており、現場の状況を把握し、職員が働きやすい職場となるよう検討し取り組んでいる。会議中は職員が活発に意見交換している。法人移行の際は、理事長が職員にわかるように説明しており、資格取得へのサポートなども伝えている。職員の要望で電話機やシュレッダー等購入している例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休假日の希望はほぼ叶えられており、勤務状況、勤務内容に対して向上心を持って働いてもらえるように職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの困難事例には、口頭、実技指導し、法人内外の研修へ参加する機会を確保してトレーニングが出来るよう努めたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会している 法人内のグループホームでは連絡を取り情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する場合、密に会話して本人の不安や要望などに耳を傾け、安心できる場所と思ってもらえるように努めていきたい		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思いを把握し、家族のこれまでの状況や要望に耳を傾けながら安心してもらえるよう努めたい 医師との連携にも努めたい		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人とご家族の話に耳を傾けサービスの内容説明をしたり相談を受けながら、これまでと生活習慣が急に変化にならないようにつとめたい		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の生活能力に応じて手伝いをしてもらう事で感謝の気持ちを伝え暮らしを共にする者同士として関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策として面会等は制限している現状。 手紙や写真の送付、電話などで対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで来ていた馴染みの方も今はコロナ禍で訪問できないため出来るようになったら面会したいと思います	新型コロナ禍前は、家族と一緒に外出に出掛ける利用者がいたが、現在は遠方から訪問した家族が窓ガラス越しに面会している。感染予防の観点からホームでは外出を控えており、リビングでの楽しみを増やしている。YouTubeを活用し、懐メロを流して歌ったり、時代劇を観るなど馴染みの楽しみを見つけて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんど利用者様はホールで過ごされている。隣同士会話もされている。意思疎通が困難な方は、スタッフが声掛けや耳を傾けながらスムーズに関わりを持てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や退所になられた際には、必要に応じてご家族との相談や法人内の別事業所を紹介するなど支援を努めていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中でご本人の要望や意向に耳を傾け、ご家族へ状況報告をしている。出来るだけ利用者様の意向に添えるようご家族の協力を得ながら支援するように努めている	職員は、利用者1対1になる時間を大切にしており、利用者自ら思いや意向を言葉にできる利用者には聞き取っている。また表出困難な場合は話しかけて、表情や反応を見て判断している。起床時間はそれぞれである他、本人が望む衣服が選択できるよう支援している。一枚の服から昔の話に花が咲いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に生活歴、生活環境その他必要事項などの情報を、利用者様、ご家族、ケースワーカー等の関係者から情報を得ながらホームでの生活環境を調整しながら支援していきたい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムを把握し、体調や自力でできることを考慮しながら、自分で出来ることはできる範囲内でしてもらうように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の要望・意向を聴き医療機関の意見及び指導を受けながら介護計画に生かしている。また利用者様やご家族様に変化が生じた場合は、実情に応じたケアが出来るように随時話し合い介護計画を立てていきたい	長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標を立てている。ケアマネージャーは本人・家族の思いを聞き取り、個人記録を基にモニタリングを行い、会議にて職員は意見や提案を出している。医師の意見も活かし、退院後等、本人の状況に変化がある場合には作成し直しており、現状に合った計画となっている。家族に同意を得て、計画を実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に個人の一般状態・食事及び水分量、服薬状態、健康チェックを記録しケアの実践や介護計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人がご家族の状況に応じて、ニーズに沿った多様なサービスが出来るよう職員一同がモニタリングで状況を把握し柔軟なサービスを提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や包括支援センターなどで地域資源を把握しながら安全で豊かな生活ができるよう情報を得ながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院時には入院準備、医療情報提供・介護サマリーの作成等、本人や家族が安心して入院や治療ができるように支援している。回復状態によっては医療機関と情報交換し、家族、かかりつけ医に相談するシステムが出来ている	入居時、本人・家族へ協力医療機関の内科・歯科の往診があり、24時間連携体制があることを説明している。外科等の専門科への通院支援は職員が行っている。受診内容に変化があった場合は家族に報告しており、個人記録と申し送りにて職員は情報共有している。緊急時は看護師に報告し、協力医療機関の指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う様子を発見した場合、速やかに看護師に報告し、かかりつけ医に相談するシステムが出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院準備、医療情報提供・介護サマリーの作成等、本人や家族が安心して入院や治療ができるように支援している。回復状態によっては医療機関と情報交換し、家族、かかりつけ医に相談するシステムが出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りについて説明し締結している。その状況になったときに家族、かかりつけ医、事業者が話し合っており取り組んでいる又は事業者も家族が寄り添って看取りができるように利用者や家族の時間を大切にしようとして取り組んでいる	契約時、重度化した場合の対応と看取りケアの指針について家族に説明し、同意書を得ている。今年看取り支援を行っている。ホームは本人と家族が少しでも多く時間を共有できるよう支援に努め、看取り後は湯灌を行い、体を清めて送り出している。職員は本人を偲び、看取り支援を振り返る時間を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に対するマニュアルを作成し取り組んでいる。また看護師が不在の時は事前に医療機関に連絡を取り協力を得られるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災時の避難訓練を利用者とスタッフ全員で毎月1回（消防署立ち合いで年2回）行っている。スタッフがホーム内の防火点検を毎月行っている。自然災害時の避難訓練も年1回行っていく予定	昨年10月から毎月1回通報と避難訓練、火災を未然に防ぐため自主点検を行っている。避難経路や避難場所、夜間一人体制の避難方法等消防署からのアドバイスを受け、職員間でアイデアを出し合っており、次回の訓練では夜勤帯の避難訓練を予定している。また、自然災害想定訓練もこれからである。	ホームは常時、災害時に利用者の命をどうしたら守れるかを考えている。職員が訓練を積み重ねることで動きが身に付くよう、夜間想定や自然災害想定訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや介助時には一人ひとりに気遣いながらその人に合った対応をしている。特に排泄誘導時、排泄介助は声かけに注意しプライバシーを確保しながら支援している	職員は、利用者の尊厳に配慮し支援するよう努め、苗字にさん付けで呼んでいる。男性職員は、女性の利用者に対して、異性であることに配慮し、羞恥心を傷つけないように声掛けし支援している。入浴は同性介助である。利用者の写真は個別に家族に送る以外は公開しておらず、個人情報は鍵付きの書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、本人の思いや要望を聴きながら自己決定できるようにしている。特にし好品や洋服など		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその時の体調と気分に合わせて、個別性のある支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に似合った髪型や毎日の整容、季節に合った洋服や本人の気に入った服等で身だしなみとおしゃれを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器選びや盛り付けで料理の見た目も工夫している。また体調に応じおかゆやとろみ食など対応している。ご利用者様には食前のテーブル拭きやお膳拭き等を手伝ってもらっている	主食と汁物はホームで作り、主菜、副菜は配食を利用している。職員は、毎回硬さや味の濃淡を確認して、利用者に提供している。自ら食事することを大切にして食べやすい器に盛り直す配慮が見てとれる。正月、クリスマス、桃の節句など行事を楽しめるよう食事を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を記録し、体調によっては高カロリー栄養補助食品の利用や栄養バランスをわかりつけ医と相談しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがきへの声かけと介助及び寝る前には入歯洗浄剤での消毒をしている。口腔内の症状がある時は歯科受診の介助も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はほぼすべての利用者がオムツを使用せずリハビリパンツと尿取りパットを利用し、歩行できる利用者はトイレでの排泄を支援している	利用者の状態から、現在はほとんどが居室でのリハビリパンツの交換である。トイレで排泄できる利用者には職員が声掛けし誘導している。居室のポータブルトイレを利用している人もおり、職員が都度洗浄し、清潔を保持している。パッドのサイズは職員間で検討し適切なものを提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を毎回チェックし、便秘させないようにかかりつけ医と相談しながら、服薬量・服薬時間を個々に応じて支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週2～3回になっているが、利用者の希望や体調に合わせて、清潔保持のためシャワー浴も出来るように支援している	週2回の入浴を支援している。浴槽に浸かる人は僅かで、ほとんどがシャワーチェアを利用しての入浴である。ホームは同性介助で支援している。ゆずや菖蒲を用いて季節を感じる事ができるよう工夫していることがわかる。脱衣所にヒーターを置き、温度差がないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転防止のため日中はホールで過ごしてもらっているが、体調や希望によって自室で休息してもらうこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と内服薬の内容・用量・副作用を確認しながら、正社員が服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や体力に応じて、気分転換や喜びを感じてもらえるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の希望のより外出、外泊の支援をする予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため外出外泊ができない状態である。散歩もできていない状態	新型コロナ禍前は、季節を感じる外出を企画していたが、現在は感染予防のため中断している。リビングから遠く海も望め、大きな窓から射し込む陽で日光浴や外気浴を楽しんでいる。職員は、換気も兼ねて窓を開閉しており、戸外の空気を取り入れて利用者のストレス解消に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と能力に応じてお金が使用できるように支援しているが、現在はほとんどの利用者が金銭管理が困難状態で、家族が管理されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族が希望されている時はその都度電話で話せるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、温度・湿度・空調に気配りをしながら清潔で居心地が良く暮らせるように支援している。また、季節を感じてもらうように行事ごとに飾り付けをしている	ホーム内は職員が行う毎日の清掃、空調管理、消毒等により清潔で臭気もない。玄関口には季節の飾り付けを施し、リビングからは四季折々の草木を眺めることができる。ただし、利用者がテーブルを囲み、食事やテレビ鑑賞している様子が窺えるが、季節感や家庭的な雰囲気が不足している。	時の感覚や季節感が薄れないよう、グループホーム本来の家庭的な雰囲気のある共用空間づくりに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で安全に考慮しながら、自由に思い思いに過ごせるように支援している。また、気の合った利用者同士が良く会話をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族が使い慣れた寝具や備品を活かして本人が居心地よく生活できるように支援している	持込品に制限はなく、長年愛用している服を持参したり、家族写真やマリア像等飾っている。利用者の状態に合わせて、居室の装飾等検討しており、ベッドと布団いずれかを選択でき、毎日起床後に寝具を整えている。職員が毎日清掃・換気し、快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が能力に合わせて安全に活動意欲が低下しないように職員が見守りや声かけをしながら支援している。また状況によっては家族と相談してベッドではなく床に布団を敷き、転落防止策をとることもある		